
愛土、きみへ

かな子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛土、きみへ

【Nコード】

N7944D

【作者名】

かな子

【あらすじ】

かなし、きみへ。いとし、きみへ。あいし、きみへ。

序・劇中のマリオネット

「0・愛士、君へ」

「死なないで」

震える声がリピートされる。何度も何度も。真っ暗な視界の中で、彼女にはそれしか聴こえなかった。

「死なないで」

痛みもなにも感じない。自分が横たわっているだろう寝台の冷たさも。全身麻酔をかけられているのだから当たり前だ。何故この声だけがはつきり聴こえるのかは解らない。

周りには誰もいないのだろうか。否、それはあり得ないだろう。

霞む意識の中で彼女は思考する。記念すべき初めての“完成品”だ。出来損ないではあるけれど。そして今、それは息絶えようとしている。天才と呼ばれているとはいえ、彼ひとりに全てを任せるとは思えない。

「死なないで」

死なないよ。

根拠のない言葉を心の中で呟いて、彼女は微笑んだつもりだった。声の主であろう彼を安心させるためだ。けれどそれも叶わないらしく、彼は繰り返し続ける。

「死なないで」

聴いたことがないほど哀しげな声が、彼女を蝕んでいく。実際に蝕んでいるのは他のものなのだが、彼女は何故か彼に殺されるのだという妙な確信があった。それは祈りでもあった。

「死ぬな」

ぶつり、それから音が途絶えた。

いやに男らしい、必死な声を最後に、彼女の耳には、もう何も聴

こえない。

それでも呟く。 死なないよ。 死ねないよ。

愛しい彼が、世界で唯一、本当に大事だと思える彼が、また笑ってくれるように。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7944d/>

愛土、きみへ

2010年10月28日03時26分発行